



第7号

令和6年11月29日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 周囲は自分を写す鏡！

今月の花は、シンピジュームです。品格のある姿、控え目な色あい、そしてかすかな芳香を持つシンピジューム。胡蝶蘭と共に世界に誇れる日本の園芸文化のすばらしさを表します。花言葉は、イメージそのもので「飾らない心」「高貴な美人」「素朴」と名付けられました。シンピジュームは寒さに強いので栽培が比較的容易です。冬は室内に入れ水を少なめにやり、春から秋までは木漏れ日程度の日陰に置いて水をたっぷりやれば、翌年またきれいな花を咲かせてくれます。花言葉を添えて花を贈れば、贈る人も貰う人も幸せな気持ちに成れます。お花屋さんで出会う人たちの表情は、誰もが素敵ですよ。

みんなと仲良く生きて行けることは幸せの道です。と言う教えは、いろいろな機会にいろいろな形で教えて貰い気付かされて来ました。それは相手を良く知ること、理解しようとする気持ちを養う作業でもあります。相手の話を良く聞くようにして寄り添うこと努力から、理解も深まり好感を持てるようになって来るものです。長い間、家族を始め知人友人の支えがあって、社会で生きて来れたのです。共に一生懸命に生きた友が居てくれて生きてる証を持たたのです。同じ目標をもって生きた人が居てくれたことで生き抜かれたのです。自分には到底及びもつかない人だらけの中で生きられたのも、話の出来る友が居てくれたからだ振り返ります。そんな中で自分はどうかだったの？と問われると、自分を振り返る具体的なことが思い出せず、甚だ心もとないのです。自分への評価は人様に言える程のものもなく、幼少の頃から注意を受けて来た事も心に生き付いて居るのか？自分の事を一番知らないのが自分かも知れません。しかし生きて行かなければなりませんので、時々のお会いに出会う嬉しい励ましの機会や人に出会い、軌道修正をしながら生きて居るのが現状です。

近頃は、来園される一人ひとりに聞くのです。会社を背負い家族を背負い、それぞれの役目と夢を抱いて来て下さる業者さん方ですが、この幼稚園業界で生きて行くとしたら、訪ねて来てくれた方に、それぞれに立派に活躍されている人ですから、どんなことを言ってくれるかが楽しみなんです。多くは子ども達向けの商品や情報を持参して訪ねてくれるのですが、私が保育士さんだったら、私が運転手さんだったら、私が園長職に在ったらの思いを聞かせて貰うようにしています。そして、社会人として立派に役目をもって生きている一人ひとりの思いを聞かせて貰える機会は、とても貴重です。職員の皆さんと作り上げている集団ですから、少しでも一人ひとり成長に寄与できる環境人集団でありたいと思うのです。

子ども達もそうですが、**周囲は自分を写す鏡！**と言われます。良いこともそうでないことも批判する立場ではないのです。構えて行けば相手も構えます。自分の事は相変わらず分からないことばかりですが、やはり人生は自分探しの旅とも言えるかも知れません。周囲の人が教えてくれていることを受け止めながらの旅なんですね。